

### 第3回 一宮川流域における令和5年台風第13号による災害検証会議 議事概要

- 1 日時 令和6年1月26日（金）15：00～17：00
- 2 場所 千葉県庁 中庁舎4階 県土整備部会議室
- 3 出席 加藤座長（web）、二瓶委員（web）、服部委員（web）、  
高橋オブザーバー（web）

#### 4 委員からの意見

##### （1）これまでの検証における主な意見と対応方針について

- ・ 加藤座長から資料1-1「一宮川に関する検証会議委員現地調査」を説明。
- ・ 事務局から資料1-2「第2回 一宮川流域における令和5年台風13号による災害検証会議 主な意見及び対応方針（案）」を説明。
- ・ 意見等なし

##### （2）浸水に関する情報の収集状況について

- ・ 事務局から資料2「浸水に関する情報の収集状況」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
  - 時系列や水位の高低が分かるよう、整理することが望ましい。
  - 上流箇所についても同じようなデータが取得出来ていれば整理すること。

##### （3）浸水対策に関する事例について

- ・ 事務局から資料3「浸水対策メニューについて」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
  - 対策の検討に際しては、多様な洪水に対応できるよう、重層的に、補い合う対策の組合せを検討していくことが望ましい。
  - 対策を網羅的にやれば良いというわけではない。一宮川流域の特性に合う対策の抽出、組み合わせが見出せるよう検証する必要がある。
  - 既に一宮川流域内で実施している対策もある。これらを含めて流域の関係者にわかりやすく伝わる資料を作成し共有できると良い。
  - 流域という運命共同体を意識した上で、浸水リスクと上手に付き合いながら流域治水を推進・継続できるよう、上下流連携や上流への感謝の仕組みを作ることができると良い。その素地が一宮川流域にはあると思う。
  - 資料3P7 事例のように、洪水時にしか利用されない調整池のような施設は、上面利用など平時でも地域で有効利用されるものになるとよい。

#### (4) シミュレーションモデルの状況について

- ・ 委員から以下の意見があった。
  - シミュレーションによる再現性を高めるための計算では、まず確認できている現地条件をモデル化したケースを優先して調整していくと良い。また、内水氾濫が卓越した時間帯など、際立った特徴に留意して進めると良い。
  - 最終的にとりまとめる資料は、対外的にわかりやすい表現とする必要がある。
  - シミュレーション結果を誤解無く伝えるために、シミュレーションには限界があり、不確実性を有していることについてあわせて伝えることが必要。動画データなどから事実をしっかり把握することが前提となる。

以上